
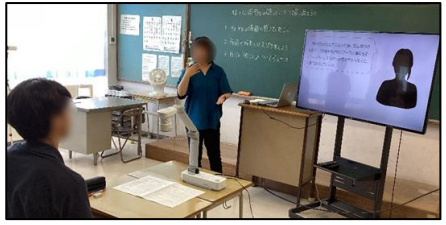


実体験をもとに学習上、生活上の困難さを探り、自分に必要なことの気づきを促す授業					
学校種	特別支援学校	学年	高等部3年	障がい種	聴覚障がい
対象の児童生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器と人工内耳により、相手と対面し口形が見える状況であれば、口頭でのやりとりがある程度可能。手話や指文字も使用できる。 人と関わることを好み、積極的にコミュニケーションを取ろうとする。 大学へ進学し、健聴者の中で生活したり働いたりすることを希望している。 学校生活以外の場面では、周囲の会話を十分聞き取れていないことについて実感しにくく、相手の話を十分聞き取れていると思うことがある。 				
短期目標	経験や体験をもとに、自分がやるべきことに気づき、自ら考え、取り組もうとする。				
必要な項目の選定 (6区分27項目)	<ul style="list-style-type: none"> 心理的な安定 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整 コミュニケーション(4) コミュニケーション手段の選択と活用 ※ これらの内容を関連付けて設定した指導内容のもと、以下の指導を実施した。				
具体的な指導内容	自分が聞こえていると感じている内容に、聞き間違いや聞き漏れ等がないか確認することで、自分の聞こえについて、理解を深める(自己の振り返り)。				
単元(題材)名	「学校生活以外の状況について考えてみよう」	指導形態	個別		
単元(題材)の目標	自分が「聞こえている」と感じている内容について、「自分が受け取った内容が、全てではないかもしれない」と気付くことができる。				
単元(題材)の計画	① 1学期や夏休み中に経験した、通常の学校生活と違う状況について振り返り、各状況の中で、自分の聞こえについて考える。 ② 大学生活で、どんな支援を受けることが可能かを調べ、その中で、自分が必要な支援は何かを考える。また、必要と思われる支援を受けることが難しい場合に、どのように対処できるかを考える。				
指導の実際	① 学校生活とは違う状況について、以下の点をワークシートで細分化、視覚化した。 <ul style="list-style-type: none"> 情報保障の有無、環境 聞こえにくいと感じたこと、その状況で感じたこと 聞こえにくさ等があった場合の対処法 ② 学校生活とは異なる環境や場面で聞こえにくかったり、会話に入れなかったりして、困った状況はないかを教師と対話で振り返った。 ③ 困った状況の原因として考えられることは何かを振り返った。 ④ 困った状況の原因に対してどのように対処できるか、または、事前に対応できることは何かを考えた。 ⑤ 学校内や学校外の様子について、生徒が気付いていないことや、担任以外の教師からの情報等を聞くことで、自分が聞こえていない状況や聞き違いのあった状況を客観的に知ることができるようにした。 <生徒の変容、考察> 自分の聞こえについて気づき、必要な対応策を考えることができた。自分は聞こえているという予想だけでなく、実際に自分が分かっていた状況を担任や担任以外が確認した状況として知ることが、自分の聞こえについて客観的に捉えることにつながったと考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><実際に体験した活動の振り返り></p>  <p style="text-align: center;"><一緒に活動した教師から客観的な情報をもらうことで気づきを促す></p> </div> </div>				